

可茂地区家庭教育学級応援通信

可茂県事務所 振興防災課
家庭教育推進専門職 安田 早由里
〒505-8508
美濃加茂市古井町下古井 2610-1
TEL : 0574-25-3111 内線 208
FAX : 0574-25-3934
令和5年度 11月号

いいかも



実りの秋、収穫の秋、心身共に伸びゆく秋！
秋の力を自分の中に存分に取り込もう。

可茂地区トレジャーワード

家庭教育楽しさ再発見！～関わろう・学び合おう・高めよう～

美濃加茂市・可児市・坂祝町・富加町・川辺町・七宗町・八百津町・白川町・東白川村・御嵩町



暑過ぎる夏を経験した者にとって秋の到来は、心躍るものです。その心地よさが身に染みて感じられ、何をするにも楽しい毎日です。区内のいたるところで数年ぶりの運動会・体育祭、校外学習、修学旅行、地域行事が開催されています。子ども達・保護者の皆さん、地域の皆さんが全力で取り組んでおられる様子が目に浮かびます。〇年生の△△△は、今年だけ。そんな思いで親子の貴重な時間を過ごしていただけたらと思います。

ひと月程前のこと、素晴らしいニュースが私たちの耳に飛び込んできました。「将棋の藤井聡太七冠、見事王座を奪取し、史上最年少の八冠達成！」。彼の出身地である瀬戸市のみならず、日本中に聡太フィーバーが巻き起こりました。一人の人間が、その道でタイトルを全て（八つ）手に入れる、それも最年少で。どんな子ども時代を過ごしたら、そのような人間に育つのか。藤井八冠の成長の過程に思いを巡らせた方も多かったことでしょう。

藤井八冠は、5歳で将棋を始め、来る日も来る日も将棋盤の前に座り、練習に励んでいたようです。「盤を読んでいるときの瞳は、小さいながらほれほれするような力強さがある。」「考え思考している表情がよかった。」と周りの大人たちが言います。その反面、対戦に敗れると壇上で人目もはばからずに泣きじゃくり、その悔し涙と敗戦をばねに、負けず嫌いの子は、変貌をとげていったとのこと。「もっと強くなりたい。」「もっと将棋が上手になりたい。」



時には、「考えすぎて頭が割れそう。」などという言葉が発しています。この頃の彼の頭の中は、完全に「将棋脳」になっていたことでしょう。

将棋の魔力に魅せられた少年は、一気に才能を開花させました。人が力を伸ばし、強くたくましく、そして謙虚に成長するためには、「集中力」や「向上心」は、欠かせないものです。一時期、「子どもが負けるのはかわいそう、勝敗をつけるのはいかなものか。」と、徒競走で手をつないでゴールすることもあったようですが、藤井王座の親御さんが、涙を流すわが子を見て将棋をやめさせていたら、今の彼は存在しなかったでしょう。人と競い合うことは、脳を活性化させると言います。時に、そのような場に子どもを立たせ、切磋琢磨させることも、子育てにおいて大切ではないでしょうか。

八冠を達成した藤井王座は、その後のインタビューで歴代最強と評されることについて、「自分では、そうではないと思っているし、今後も、他の方の将棋から学んでいきたい。もっと実力をつけ、その上で面白い将棋を目指したい、内容のよいものにしたい。」と、あくまでも謙虚です。心身ともに健やかにたくましく。「家庭教育で、子ども達とどのような関りをしたらよいか。」、藤井八冠の偉業から学ぶところは多いように感じました。

<家庭教育学級 訪問・取材より>

今月号は、乳幼児期と中学生との合同学級の実践を一つ、加えて区内の私立中学校で実施されている PTA 事業を紹介します。



体験活動参加型



No.14

加茂郡坂祝町 乳幼児期（0歳児）と坂祝中3年生との合同学級

「いのちのふれあい学級」

3億分の1の確率で生み出される命は、とても尊いものです。それを後世につないでいくことが、今を生きる者の大切な役目です。助産師さんのお話や妊婦体験、幼児とのふれあい等を通して、命（生きるということ）について考えてほしいと思います。

10/25（水） 10:30～12:00 坂祝中作法室・視聴覚室にて
参加者：0歳児学級親子15組 坂祝中3年生：69名

講師：坂祝町 保健師さん・助産師さん 各1名

「助産師さんの講話と妊婦体験」「0歳児とのふれあい」、この2コマの授業を前半・後半40分ずつの入れ替え制で2クラスが体験しました。

講座1：講話&妊婦体験



「この世の中に、永遠の命などありません。命はつなげていくものなのです。3億分の1の確率で生まれた命。それはとても尊いものです。出産の時、母親は痛みと戦いますが、感動で泣いても痛くて泣く人はいません。」

保健師さん・助産師さんが、生徒達の前で命の大切さを語ります。受精のしくみや、出産の様子等も、映像を通して学びました。

講座1の後半では、妊婦体験をしました。お腹が大きくなった時の、お母さん（女の人）の大変さを、男女共に体感しました。



講座2：0歳児とのふれあい



北舎2階作法室で赤ちゃんとのふれあいました。会のはじめに10月生まれの誕生会がありました。赤ちゃんだけでなく、中学生も、お誕生日を祝っていただきました。

オレンジ・水色・緑・紫・ピンク・黄色の6つのグループに分かれ、手作りおもちゃで遊びました。始めはどんなふうに関わってよいかわからずとまどっていた中学生も、次第に場の雰囲気になれ、絵本を読み聞かせたり、遊び方を教えたり、そっと体にふれたりすることができるようになりました。そのふれあいの姿を、学級生が温かな眼差しで見守っていました。



<学級生の感想より>

- ・中学生が優しく接してくれた。たくさん褒めながら遊んでくれた。
- ・大きくなったらこんな感じになるのかな？子どもの未来の姿をなんとなく重ねられた。
- ・自分の子もいつかこの中学生のように大きくなるんだなと感慨深くなった。

<中学生の感想より>

- ・乳幼児が可愛かった。いい経験になった。
- ・乳幼児とのコミュニケーションの取り方の難しさがわかった。



No. 1 5

学校法人美濃加茂学園 美濃加茂中学校

親から子へのメッセージ

育ちゆく子ども達にPTAとしてできることはないかということから、親自身の体験や人生観等を、子どもに伝えるこの活動を考えた。平成22年度から高校生を対象にして14年間、令和元年度から中学生も対象に加え、今日まで継続している。

10/16 (月) 13:10~14:00 美濃加茂中学校・視聴覚室

講師：美濃加茂中・高等学校 PTA 役員さん



お話の最後に本を紹介します。「心が軽くなる本」「人生の主人公は自分」と思える本です。

ご講話 → 質疑応答 → 感想記入

＜親から子へのメッセージ＞

父親の仕事の都合で、高校3年間をインドネシアのインターナショナルスクールで学んだ中学1年生のお母さんが、2年生の生徒達に話しかけます。

○生活全てにおいて日本との違いがあり、自分の思うようにならないことに、ナーバスになる事も多かった。(交通機関の時間・宅配便の到着・クリーニングの仕上がり等)

○外国に行ったので、日本の常識が通らないこともあることを自覚した。

○思うようにならないことに腹を立てていても物事は前に進まない。外国の価値観を柔軟に受け入れていくことが大切だと思った。

○これからますます国際化が進み、外国の人と組んで仕事をする人もいるだろう。各々の個性を認め合い、互いを尊重し合えば、よい社会はできる。

○各々の得意分野を大事にして、人生の花を咲かせてほしい。

＜質疑応答＞

- Q1：ナーバスになった時、どう解決しましたか？
自分から積極的に関わるようになった。日本にいた時は、自分が動かなくても何とかだったが、外国では自分から行動しないと変わらないことに気づいた。困った時は自分から行動する！
- Q2：自分の好きなことに挑戦するという事で、先生の好きなことはなんですか？
人と話すこと、関わるのが好きです。子育てをしていた時も、わからないことや困った時は、自分から人に関わり解決していました。
- Q3：外国での経験の中で、自分の意に添わないことをどう受け入れましたか？
受け入れざるを得ない。そうでないと生きていけない。怖がらずにチャレンジしました。
- Q4：どうしても合わない人との付き合い方はどのようにしたらよいですか？
まずは、自分の心が大切。うまく距離をとること。人との出会いは、縁です。無理をして合わせるのではなく自然に。また、決して一人で抱え込まないように。いろいろな人に聞いてもらうと心が軽くなります。

美濃加茂中・高等学校では、PTA活動の中で、この事業をとっても大切にしているとのことです。

講話は、中1-高1、中2-高2、中3-高3というように、学年を組み合わせ、年に3回実施されます。この日は中2-高2の組み合わせのため、5限目に中学生、6限目に高校生が講話を聴くとのことでした。

忙しい中、PTAの皆さんが生徒たちのために、積極的に講師を引き受けて下さり、本当にありがたいことだと、先生方がおっしゃって見えました。



家庭教育学級（在宅取組）で 「話そう！語ろう！わが家の約束」運動に 取り組みましょう。

岐阜県では、在宅で取り組むことができる家庭教育学級、「話そう！語ろう！わが家の約束」運動の実施を推奨しています。類似の活動も含め、今年度まだ取り組んでいない皆さんに、改めて紹介いたします。

あと2ヶ月で2023年も終わりです。年末年始をはさみ、親子で過ごす時間が増える冬休みは、絶好の機会です。家族の絆を深めるために、まだ約束運動に取り組まれている園や学校は、冬休みに取り組んでみましょう。

① 約束を決めます

家族みんなが気持ちよく生活できる約束を話し合って決めましょう。大きな約束を家族で1つ決め、それぞれ個人の約束を決めてもいいですね。



② 実践を記録します。

一言声をかけ合えるといいですね。

- 「がんばっているね。」「気持ちがいいね。」「よかったね。」「うれしいな。」「ありがとう。」
 - △ 「もっと、がんばろう。」「明日は守ろうね。」
- ※約束が守れていない時こそ、家族の会話が増えるチャンスです。



③ 親子でメッセージを交換します

約束に取り組んで、よかったこと、できるようになったことを見つけて、伝え合きましょう。

「1年の計は元旦にあり」

1年の計画は、年の初めである元旦に立てるべきであり、物事を始めるにあたっては、最初にきちんとした計画を立てるのが大切だということ。

岐阜 家庭教育学級「話そう！語ろう！わが家の約束」実践カード

「家庭教育実践する日」は 毎月第3日曜日と「8」のつく日です。

わが家の約束宣言

わが家の約束を決めよう。

月日	/	/	/	/	/	/
曜日						
約束を守りましたか						

○取り組んだ感想や家族への思いを書きましょう。 ○子どもへの励ましの言葉等をお願いします。

子どもから 家族へのメッセージ

保護者から 子どもへのメッセージ

☆ 学校で楽しかったことや がんばったことも 家族に話しましょう。

冬休み前に、「話そう！語ろう！わが家の約束」運動の実践カードが入ったチラシが全中学校の全保護者に配付されます。ぜひ、ご活用ください。（園・小学校は、7月に配付済みです。）

